



スーパー グローバル ハイスクール

佐高 SGH通信 2017

No. 7 (平成29年6月8日発行)

佐高 inspirer ファイル

将棋団体戦(中学)・囲碁個人戦(高校) 県大会優勝！目指せ日本一！



左から、若林大輝くん、荒川成瑠くん、竹熊柊くん



大宮駿平くん

～中高の囲碁将棋部の生徒が、ともに県大会優勝という快挙を成し遂げました～

☆将棋団体戦(附属中3年:若林大輝^{ひろあき}くん、同1年:荒川成瑠^{なる}くん、同1年:竹熊柊^{しゅう}くん)

☆囲碁個人戦(高校1年:大宮駿平^{しゅんぺい}くん) *大宮くんは野球部にも所属し甲子園を目指しています。

将棋: 2017年5月28日、「文部科学大臣杯第13回小・中学生将棋団体戦(栃木県大会)」(日本将棋連盟、産経新聞社主催)が、鹿沼市まちなか交流プラザで開催されました。この大会は、同一の中学校に在学する**生徒3名**で編成されたチームで行う団体戦です。中学生の部では、本校からの3チームをはじめ、県内から8チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。その結果、本校のBチームが見事、初優勝し、**東日本大会**(7月24日、東京)に本県代表として出場することになりました。東日本大会には32チームが出場し、上位2チームは更に決勝大会へと駒を進め、中学校の日本一校を決定します。

囲碁: 2017年5月20日、「第41回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会」と「全国高校総合文化祭(総文祭)」囲碁部門の両県予選が、県教育会館で行われ、個人戦男子で、本校1年の大宮駿平くんが優勝しました。大宮くんは、都内で行われる「**全国選手権大会**」(7月24～26日)および、宮城県で行われる「**総文祭囲碁部門**」(7月31日と8月1日)に出場し、ともに高校生日本一をかけて戦います。

受賞者インタビュー

☆将棋団体戦（附属中3年：若林大輝^{ひろあき}くん、同1年：荒川成瑠^{なる}くん、同1年：竹熊柊^{しゅう}くん）

Q1 将棋をはじめたきっかけは何ですか？

- ・小学校低学年の頃、祖父から教わりました。本格的には中学校から始めました。（若林）
- ・幼稚園の年長組から始めました。小3からは宇都宮の道場に月2回程度通っています。（荒川）
- ・幼稚園の年長組から祖父に教わりました。小2の頃から、宇都宮の（荒川くんと同じ）道場に月2回程度通っています。小6で全国大会に出場しベスト8に入賞しました。（竹熊）

Q2 普段、練習はどのくらいやっていますか？

- ・学校の部活（囲碁将棋部）の時間に練習をしています。家ではあまりやっていません。（若林）
- ・部活以外では、家でインターネットを使って様々な人たちと対局をしています。一日3局（20分程度）やることにしています。また、詰め将棋の本を読むことがあります。（荒川）
- ・インターネットでの対局を一日2局（15分程度）行ったり、戦術の本で研究したりしています（竹熊）

Q3 将棋の面白さは何ですか？

- ・自分が考えたとおりの戦術が決まったときの爽快感です。こうすればこうなるという理詰めで考えることが魅力です。（若林）・負けた悔しさが大きいほど、勝ったときの嬉しさが大きいのでやめられません。（荒川）
- ・今まで勝てなかった相手に勝てるようになり、相手から強くなったねと認めてもらえるのが嬉しいです。（竹熊）

Q4 これからの目標は何ですか？

- ・東日本大会でベスト4に入って全国大会に進出し、優勝することです。

Q5 3人のチームについて、お互いにどのように思っていますか。

- ・若林くん→ すごい1年生2人が入学してくると聞いていましたが、とても話しやすく、いいチームになったと思います。
- ・荒井くん→ 若林先輩は尊敬できる先輩で、チームワークをととても大事にしています。竹熊くんはすごい選手で目標にしています。
- ・竹熊くん→ 私も若林先輩を尊敬しています。荒井くんは乗ってきたときの強さがすごいと思います。いっしょに頑張っていきたいです。



☆囲碁個人戦（高校1年：大宮駿平^{しゅんぺい}くん）

Q1 囲碁を始めたきっかけは何ですか？

- ・幼稚園の年中組の時、囲碁クラブの先生から囲碁を教わりました。そして、小1の時、公園でブランコをしていると、近くの囲碁道場の先生に声をかけられ、その道場に入門することになりました。今も通っています。

Q2 練習はどのくらいやっていますか？

- ・小2から野球を始めたため、土日の午後、野球の練習が終わった後、囲碁道場で6時間くらいやっていました。小5の時には全国大会に出場しました。高校では、週に1回（土曜日）、野球の練習の後、3時間くらい道場で練習を行っています。

Q3 囲碁と野球の両立は大変ではありませんか？

- ・自分の中では野球が大好きなので、苦にはなりません。野球から学んだ「最後まで諦めない」という気持ちが、囲碁で勝つために役に立っています。高校では野球を優先しようと思い、本大会に参加するつもりはありませんでしたが、道場の先生に「一度しかない人生なんだから悔いを残すな」というアドバイスをいただき、思い切って参加しました。県大会の決勝では、同じ道場のライバルが相手で、途中までは劣勢でしたが、最後まで諦めず、もがき苦んだ結果、勝利を手にすることができました。

Q4 これからの目標は何ですか？

- ・全国大会には100名近くが出場しますが、まずは上位8名に勝ち残り、決勝トーナメントに進出することが目標です。また、ルールは世界共通なので、囲碁が盛んなアジアの国々の人たちとも対戦してみたいです。

Q5 ところで、AI（人工知能）と対戦してみたいと思いますか？

- ・対戦してみたいとは思いますが、人間との対戦では、その人の性格が打ち方に表れてきます。やはり、人工知能ではなく、人間同士のコミュニケーションとして、囲碁を楽しみたいです。

